

【講義】

強度行動障害とは

社会福祉法人 とちのみ会
とちのみ学園 石塚大志

この講義で学ぶこと

- 「強度行動障害」と言われる人がいること
- どのような人たちなのか
- 強度行動障害は障害特性と環境との相互作用で引き起こされる
- 支援の基本は障害特性を理解すること
- 6つの支援のスタンダード

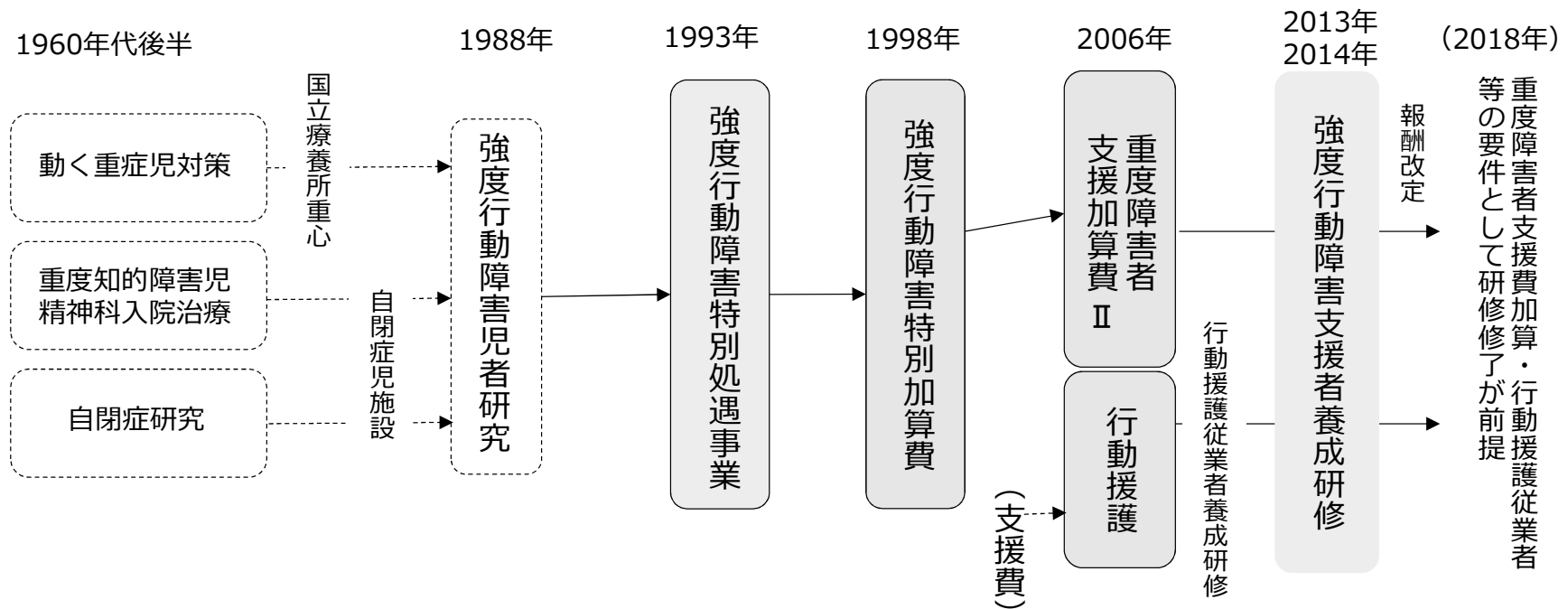
強度行動障害とは | 定義

- 自分の体を叩いたり食べられないものを口に入れる、危険につながる飛び出しなど、本人の健康を損ねる行動
- 他人を叩いたり物を壊す、大泣きが何時間も続くなど、周囲の人のくらしに影響を及ぼす行動
- 上記の2つの行動が著しく高い頻度で起こるため、特別に配慮された支援が必要になっている状態

障害福祉の仕組みでは「障害者支援区分」の「行動関連項目」において10点以上（最大24点）を強度行動障害と言う

過去を振り返ると

強度行動障害のある者への対策は、30年近く前から検討されてきているが・・・



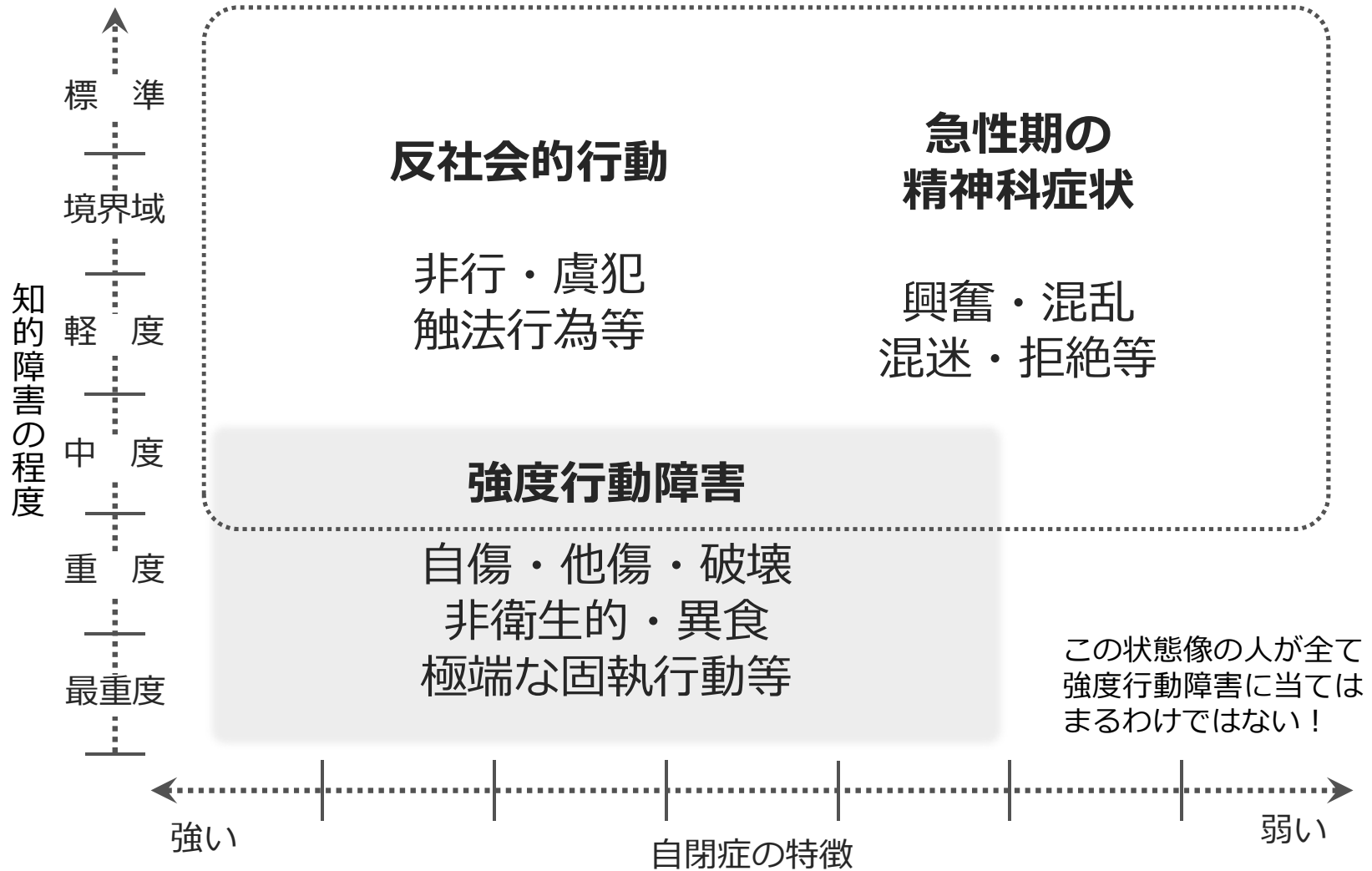
映像資料 | 強度行動障害



【事例の概要】

- 各事例、約 3 分
- 5 事例
 - 行動障害が表れている時の映像
 - 障害特性に即した支援の映像
 - 行動障害が軽減した、あるいは普段の穏やかな時の映像

強度行動障害になりやすいのは



知的障害とは | 定義

知的障害の定義

- 知的機能に明らかな制限があること
 - 適応行動に明らかな制限があること
 - 上記2つが発達期（概ね18歳まで）にあらわれること
-
- 「知的機能の明らかな制限」とは、一般的に知能検査の結果（IQ）を参考にする（標準よりかなり低い状態であるかどうか）
 - 「適応行動に明らかな制限」とは、適応行動尺度（社会成熟度検査等）の結果を参考にする（標準よりかなり低い状態であるかどうか）
 - 日本では、都道府県・政令指定都市が知的障害（児）者に療育手帳（愛の手帳・みどりの手帳）の交付を行っている

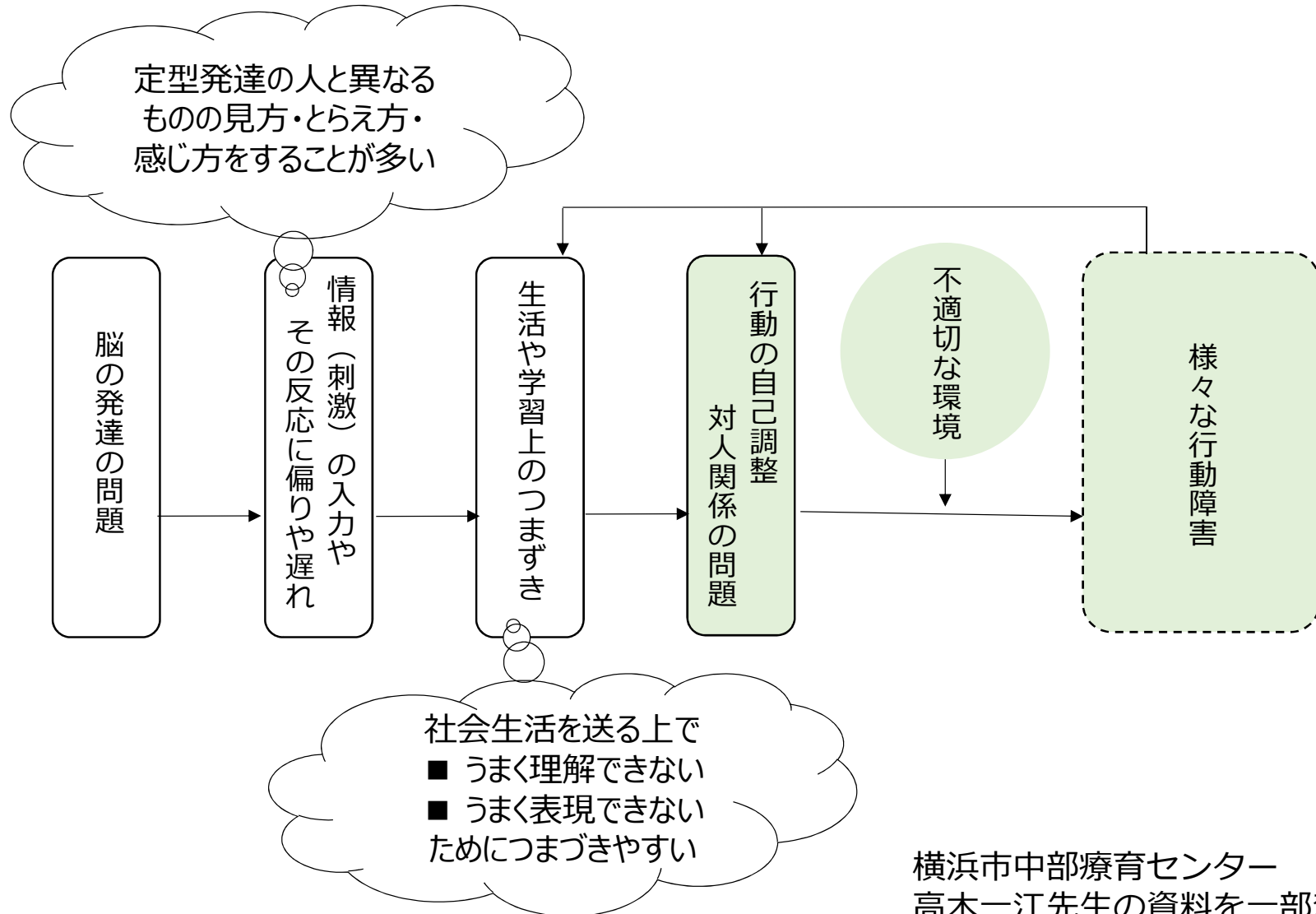
知的障害とは | ICDの分類

測定不能	20	35	50	70
最重度	重度	中等度	軽度	

IQの数字は目安

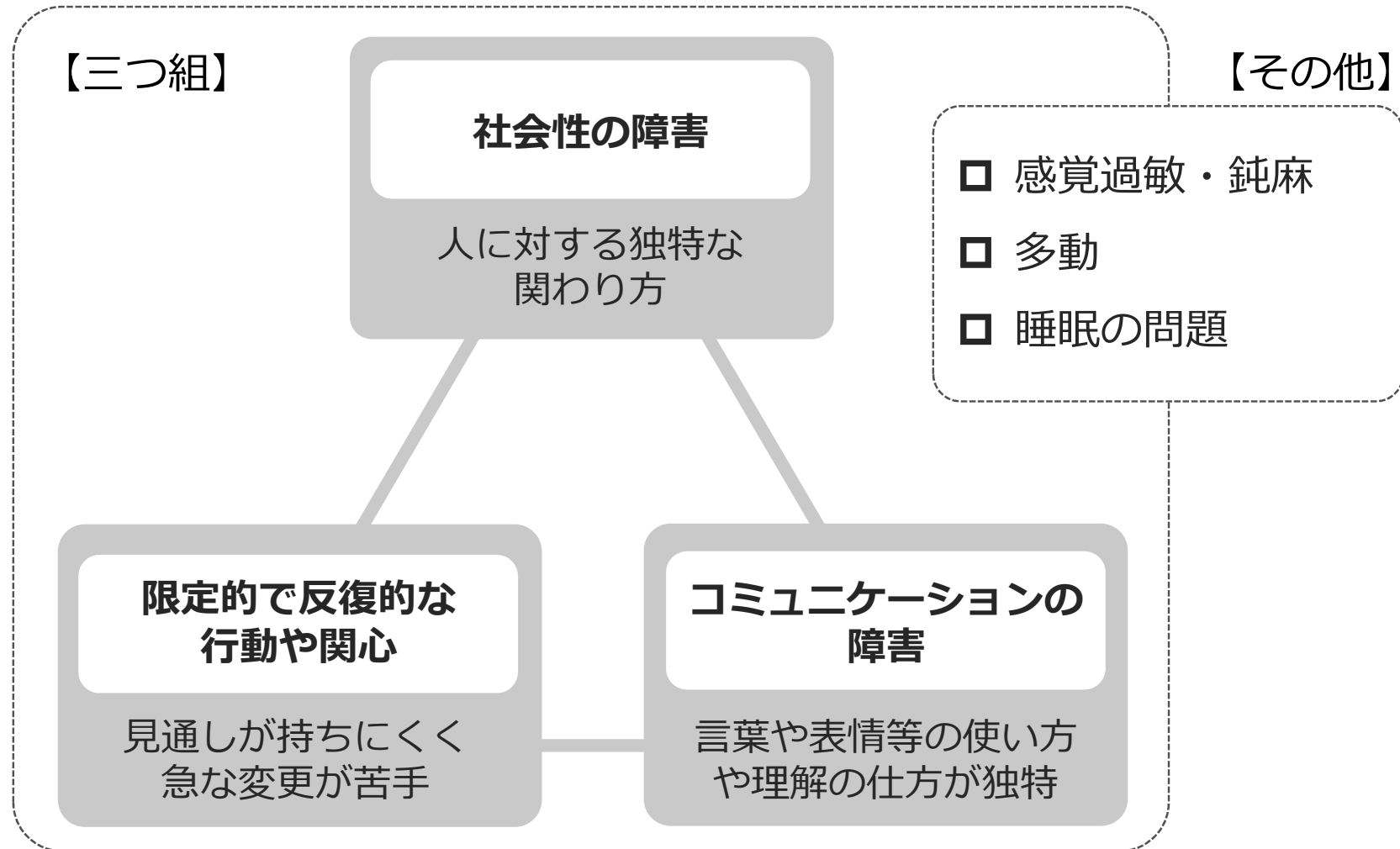
軽度 (Mild mental retardation : IQ 50-69) …B2 / IV
成人期においてその精神年齢は概ね9歳から12歳相当。学齢時に学業不振が表面化する場合が多い。社会的な興味は年齢相応である。成人になってから、仕事に就き、良好な人間関係を保ち、結果的に地域社会の一員として周囲から評価されている事例が多く、そのような能力をもっている。
中度 (Moderate mental retardation : IQ35-49) …B1 / III
成人期においてその精神年齢は概ね6歳から9歳相当。幼児期から発達の遅れが顕著であるが、基本的な身辺自立やコミュニケーション能力、そして読み書きについては一定レベルの学習は可能である。社会生活や就業生活に必要な支援の程度には個人差がある。
重度 (Severe mental retardation : IQ20-34) …A2 / II
成人期においてその精神年齢は概ね3歳から6歳相当。12歳頃までに2語文程度を用いる。人生のどの時期においても、生活のさまざまな場面で他者からの継続的な支援が必要である。
最重度 (Profound mental retardation : IQ 20以下) …A1 / I
成人期においてその精神年齢は概ね3歳未満。身辺自立や節制 (がまん)、コミュニケーション能力、さらには外出・移動において相当の制限がある。

自閉症とは | 育て方が原因ではない



横浜市中心部療育センター
高木一江先生の資料を一部変更

自閉症とは | 三つ組の障害



社会性の障害

障害特性	実際の場面で想定される行動
①人を意識しにくい または過剰に反応する	<ul style="list-style-type: none">・無視しているような反応・一方的に話す、質問する
②相手の立場に立ちにくい 共感性が乏しい	<ul style="list-style-type: none">・見知らぬ人に話しかける・相手の思いや事情を汲み取れない
③表情や感情を読み取るのが苦手	<ul style="list-style-type: none">・相手が嫌がることも繰り返す・相手が怒っても平然としている
④場の雰囲気を読み取るのが苦手 空気が読めない	<ul style="list-style-type: none">・静かにすべきところでも騒がしい
⑤人よりも物に愛着を示す	<ul style="list-style-type: none">・友だちとの遊びよりもミニカーに夢中になる
⑥自分と人の物の区別がつかない	<ul style="list-style-type: none">・断りなく人の物を持っていく・人の食べ物を食べてしまう

コミュニケーションの障害

障害特性	実際の場面で想定される行動
①話し言葉をコミュニケーションの道具としてうまく使えない	<ul style="list-style-type: none">・言葉を使わず直接行動する・言葉で伝えてもうまく伝わらない・気に入ったフレーズの繰り返し
②文字は読めても意味までは伝わりにくい	<ul style="list-style-type: none">・伝えている内容が伝わらず勘違いしやすい・字義通りに受け取ってしまう
③オウム返し（エコラリア）	<ul style="list-style-type: none">・伝えられたことをそのままオウム返しする
④身振りやジェスチャーの理解が難しい	<ul style="list-style-type: none">・ジェスチャー等が（暗黙では）伝わらない
⑤独特のコミュニケーション方法	<ul style="list-style-type: none">・人を叩いてジュースを要求する等

限定的で反復的な行動や関心

障害特性	実際の場面で想定される行動
①興味関心が乏しい・狭い・偏る 限局した興味関心に没頭する	<ul style="list-style-type: none">・レジャー施設に行っても無関心・店の商品を並べ替える
②物事や行動の意味理解が難しい ルールや手続きどおりに行動する	<ul style="list-style-type: none">・家のトイレには決まった時間に行くが、外ではトイレに行けない・毎日、同じ服を着ようとする
③経験していないことは難しい	<ul style="list-style-type: none">・初めての場所では不安が強く、行動停止する・指示があるまで待っている・経験したやり方だけにこだわる
④目に見えないことを想像できない	<ul style="list-style-type: none">・時間や予定がイメージできずに待てない
⑤見通しが持ちにくい	<ul style="list-style-type: none">・予定が変更されるとパニックに

その他の特性

障害特性	実際の場面で想定される行動
①感覚の過敏さ、鈍感さ	<ul style="list-style-type: none">・偏食が目立つ・ケガをしても平然としている
②五感への反応が独特で一貫性がない	<ul style="list-style-type: none">・子どもの声には過敏だがTVは大音量で見る
③感覚の選択性の問題 情報の取捨選択ができない	<ul style="list-style-type: none">・電車のアナウンスや周囲の音、親の声が一度に入ってきて、ひとつに注目できない
④シングルフォーカス 一部に意識が向きがちで全体に注意が向かない	<ul style="list-style-type: none">・車が好きかと思ったらタイヤを見るのが好きだった
⑤能力の発達アンバランス	<ul style="list-style-type: none">・名前は書けないが計算は得意・計算は得意だが支払いはできない

知的障害と自閉症

まとめ

- 情報を受け取ること・表現することが難しい
 - 感じ方や考え方が独特で共有しにくい
- ⇒ 「わかろうとする努力」と「伝える工夫」が必要

知的障害と自閉症の併存

- 知的障害が重度であればあるほど、自閉症の併存率は高くなる
 - IQ30以下では併存率は7割以上（杉山, 2008）
- ⇒ 診断がついていなくても自閉症の人はいる

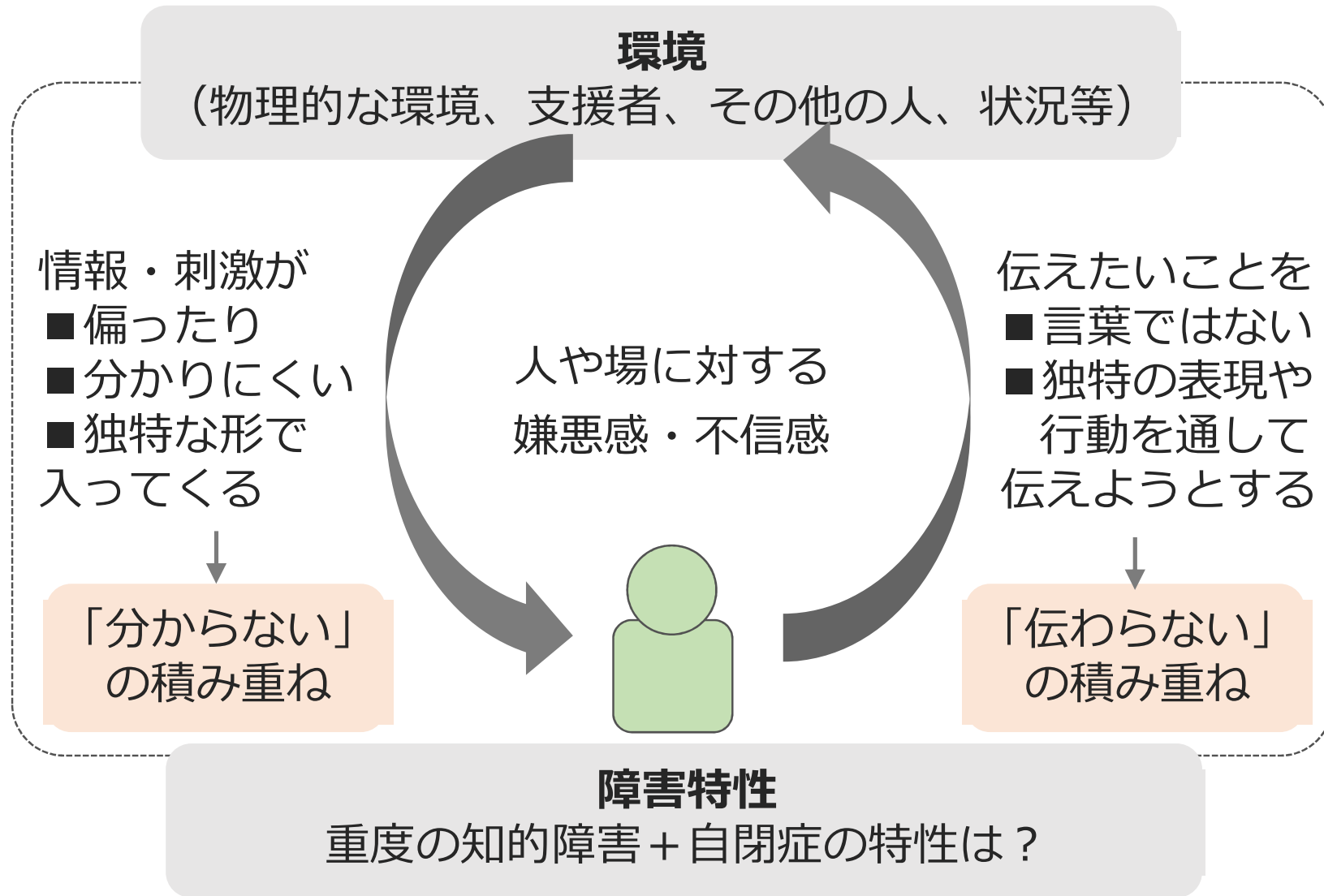
知的障害 + 自閉症の人の特徴例

- 知的障害や自閉症の特徴障害特性のサンプルです
- 障害福祉サービスを提供する私たちは、このような人たちが安心して過ごせる場を作ることが大切です（ほとんどこれしか出来ない）
- しかし、そのような場を作るには、まず一人ひとりの特性を理解する必要があります

想定される 障害特性

- ① ことばを聞いて理解することが苦手
- ② 表情や身振りを、誤って理解してしまう
- ③ 人や場面によって態度を変えられない
- ④ 他の人の興味あることに関心が薄い
- ⑤ 全体をとらえて関係性をつかむことが苦手
- ⑥ 別のやり方を探したり臨機応変な対応が苦手
- ⑦ 集団で一斉に行動することが苦手
- ⑧ 「いつ終わる」かを理解するのが苦手
- ⑨ 抽象的、あいまいなことの理解が苦手
- ⑩ 経験していないことを想像することが苦手
- ⑪ 特定の物事に強く固執
- ⑫ 記憶することが苦手
- ⑬ 発達（認知能力）がアンバランス
- ⑭ 特定の行動を何度もくりかえしてしまう
- ⑮ 期待されていることに注意が向かない
 - ・落ち着きがなく、その場にとどまっていられない
 - ・結果をかえりみず突然反応してしまう
- ⑯ 特定の感覚が過敏、または鈍い

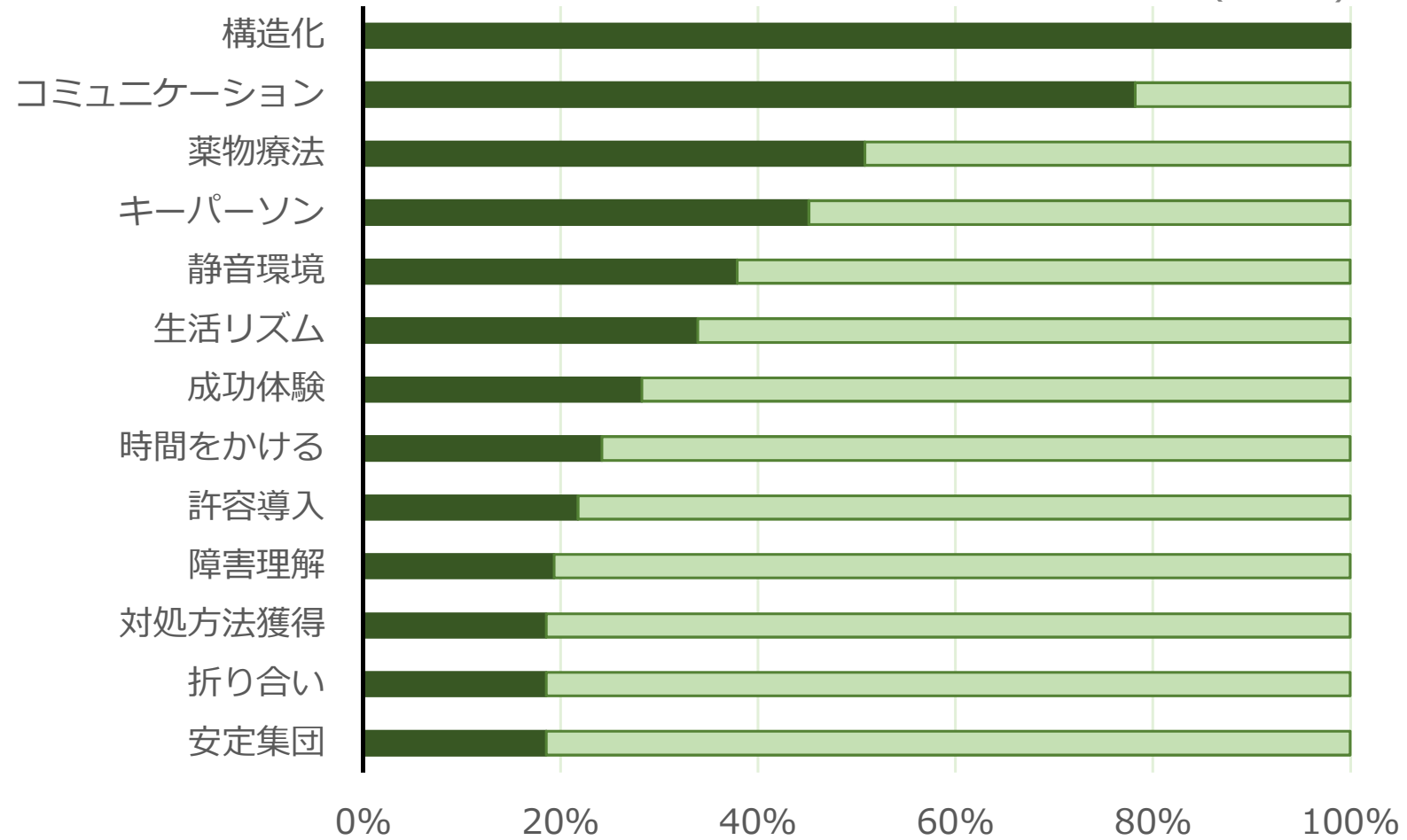
どうして強度行動障害になるの？



障害特性 × 環境要因 ⇒ 強度行動障害

強度行動障害に有効な支援

(n=32)



(飯田, 2004)

共通する支援の枠組み

- ☑ 構造化された環境の中で
- ☑ 医療と連携しながら
- ☑ リラックスできる強い刺激を避けた環境で
- ☑ 一貫した対応をできるチームを作り
- ☑ 自尊心を持ちひとりでできる活動を増やし
- ☑ 地域で継続的に生活できる体制づくりを進める

映像資料の支援もこの枠組を原則として

大切なキーワード「構造化」



- 本人の強みを活かし、情報を整理して、その人が理解できる環境を作る
- 試行錯誤を重ねて変化に合わせてアップデートする

さまざまな環境の構造化

物理的な環境	<ul style="list-style-type: none">■ 苦手な刺激を取り除く<ul style="list-style-type: none">※直接的な対処：イヤーマフ、遮光カーテン、パーテーション※根本的な対応：日課の変更、場所の変更■ 場所と活動を1対1対応にする■ トランジションエリア（中継地点）を設定する
時間的な環境	<ul style="list-style-type: none">■ やることや予定を写真等で提示する<ul style="list-style-type: none">※作業手順や中・長期のスケジュール（1日、1週間、1ヶ月）※予定の変更を写真で知らせる／予め練習して慣れる■ 待ち時間を視覚化する（トークン・エコノミー、タイマー等）■ ひとりでできる活動の用意（自立課題・ワークシステム）
人的な環境	<ul style="list-style-type: none">■ 本人に理解できる写真等の視覚刺激、短い言葉で伝える■ 本人の要求や拒否の仕方を理解して読み取る■ 話ことばに頼らないコミュニケーション手段（PECS等）■ 本人の取り組みや努力に対する強化（報酬）を明確にする■ 人によって対応が変わらないよう一貫した対応をする

まとめ | 強度行動障害とは

⇒ 強度行動障害とは

- 自らの健康を損ねる行動／周囲の人の暮らしに影響を及ぼす行動／これらが著しい頻度で起こり特別な支援が必要な状態

⇒ 強度行動障害になりやすいのは

- 重度・最重度の知的障害／自閉症／思春期以降から成人期
- 上記の特性に対する配慮が不十分な環境との相互作用

⇒ 強度行動障害への支援にはスタンダードがある

- 一人ひとりの特性を理解しようとする事
- その特性に配慮した生活環境を作り出す事
- これまでの実践から、共通する支援の枠組みが存在する